

ヨット・モーターボートの雑誌

APR. 2010
www.kazi.co.jp

4

[特集]

中高年から
始める

ヨット& ボート



33rd AMERICA'S CUP
第33回アメリカズカップ
The Cup back to the USA

好評連載

行列のできる

ヨット、ボートよろず相談所
レーシング・タクティクス虎の巻
あの日のオールド・ソルト
ナビゲーターズ・ガイド
「静岡県・熱海」

トピック

デュッセルドルフ・ポートショー
スマ・オーシャンレーシング
ケン・リード・インタビュー
基礎から学ぶ競艇品ガイド
「フェンダー」

欄解説

リベロ52スポーツセダン
ラグーン400
スカッド18

組じ込み付録

マリングッズカタログ

Marine Photo Gallery

「北極圏の海——スバル・バル諸島」

船を学ぶ。

ヨットスクールは、
操船技術、知識習得の近道



ポート免許を取ったら、 すぐに一人で操船できる？

ポート免許を取っても、すぐに運転（操船）できるか不安……という人も多いかもしれません。民間の一般的な免許スクールの場合、実技講習はたった1日。普通に考えても、これだけで操船ができるようになるはずはない。加えてポート免許は、講習、試験ともモーター艇で行われるため、セーリングクルーザーの操船については、何も教わらないということになる。

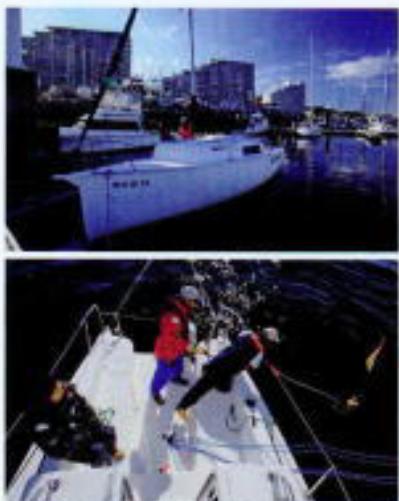
そこでおすすめしたいのが、ヨットスクール。ディンギーやクルーザーの操船などを教えるヨットスクールが全国に点在しており、最近は、特にクルーザーヨットのスクールが人気を集めている。

ヨットスクールでは 何が学べる？

ここでは、大阪、神奈川、愛知、沖縄など全国各地でヨットスクールを開講している青木ヨットスクールを例に、講習内容を見てみよう。スクールの校長である青木 洋さんは、1971年から1974年にかけて、21ft(6.4m)の自作木造ヨットで単独世界一周を果たしたセーラー。セーリングに関する体系的な技術と知識の普及を目指して、アメリカセーリング協会(ASA)のプログラムを基本に、さまざまなコースを開設している。スクールは、段階を追って資格を取得していくシステムになっている。

最も初心者向きといえるのが「セーフ・ボーティング＆ドッキングコース」。教室では、ヨットの各部名称などの基礎知識、ロープワークなどを学ぶ。海上では、25ft前後(7~8m)のヨットを使って、さまざまな状況下での離着岸、落水者があった場合の救助法などを学ぶ。講習期間は2日間で、2~4人の生徒と講師が同乗し、船上では役割を交代しながら学ぶ。次のステップである「ベーシック・キールボートコース」では、中型ヨットの

神奈川県のシティマリーナウェラシスで行われた、初級者向けのコース。この日の受講生は、60歳の会田雅美さん（右）と女性1人。講師の安齋久雄さん（左奥）も、青木ヨットスクールの卒業生で、インストラクター資格を取得した。「私が初めて青木ヨットスクールを受講したときは、すでに20年以上のヨット経験がありましたが、まったく別物という感じで、目からウロコが落ちる経験でした」



上：講習艇は25t前後で、2~4人の受講生が乗り込む。この船は、スクールの校長である青木 洋さんがプロデュースした信天翁（あはうどり）24
下：初心者コースから上級者コースまで、最も重視されるのは安全。写真は落水者救助のトレーニング

船長としてディセーリングを行えるようになることが目標（2日間）。「ベーシック・コースタル・クルージングコース」では、実際に2泊3日のクルージングをしながら、ナビゲーション（海図を使った航海計画の立案と実行）を含む、実践的な知識と技術を習得する。そのほか、ナビゲーションを中心して学ぶ「コースタル・ナビゲーションコース」などがある。



2日間のコースタル・ナビゲーションコースでは、航海計画の立て方にについて、実際の海図を使った作業をしながら徹底的に学ぶ



左：東京都の夢の島マリーナで行われたコースタル・ナビゲーションコースの模様
右：青木ヨットスクールを主宰する青木 洋さん。22歳のときに自作した木造ヨットで単独世界一周に出発した冒険セーラーでもある

より上級のプログラムとしては、夜間航海を含む3泊4日のコースや、ASAのインストラクター資格を目指すコースも用意されている。

安全第一、自分で考えるのが基本

ヨットを始めようとしている人にとて、最初の心配は、安全面と、車の車庫入れにあたる離着岸。初級者向けのコースでは、これを徹底的に学ぶことになる。

青木ヨットスクールのプログラムでは、生徒たちが自分で考えて実践することが大事にされており、よほどのことがない限り講師は細かな指示をしない。生徒たちは、失敗から学ぶことになる。この傾向は、より上級のコースになればなるほど顕著なようだ。もちろん、船の損傷などの危険が差し迫っている場合には、講師からのアドバイスがある。

青木ヨットスクールでは、初級者コースで1,350人もの卒業生を出しておらず、受講生の多くはその後も趣味としてヨットを続け、自分の船を持つようになる人も多いということだ。さらなるステップアップを目

指して、上級資格に挑戦することがワークとなっている人もいるようだ。卒業生同士の同窓会などもあり、こうした交流は、初心者にとって仲間の輪を広げる機会ともなりそうだ。

ヨットなど船での遊びを趣味にするにあたって、初心者が最も心配なのが海上での安全。ヨットスクールで基本をしっかりと学べば、海への恐怖感はなくなり、より積極的に楽しめるようになるに違いない。



青木ヨットスクールは、アメリカセーリング協会（ASA）のプログラムに準拠。資格を得ていく過程も楽しい

青木ヨットスクール ベーシック・キールボートコースの 講習内容

【1日目】

- ・トレーニング内容の説明
- ・安全装備のチェック
- ・ロープワーク
- ・ヨットの各部名称
- ・離着岸の海上実習
- ・出航準備
- ・セーリングの海上実習
- ・艇の後片づけ

【2日目】

- ・トレーニング内容の説明
- ・各風向でのセーリング理論、海上実習
- ・落水者救助法
- ・海上での実技テスト
- ・艇の後片づけ
- ・教室での卒業テスト

青木ヨットスクールの コースと受講料（例）

- セーフ・ボーティング＆ドッキングコース
2日間／47,250円
- ベーシック・キールボートコース
2日間／49,100円
- ベーシック・コースタル・クルージングコース
3日間／94,500円
- コースタル・ナビゲーションコース
2日間／42,000円
- ペアボート・チャータリングコース
4日間／126,000円

（問）青木ヨット
TEL: 072-465-8192
<http://www.sokiyacht.com/>



船に夢中。 基礎から学んでリスタート 山を征し、海を楽しむ森田生次さん



クルーザーの経験は甚無だったが、一日惚れして手に入れたP32。休日が平日ということもあり、1人か2人で乗ることがほとんどだという

大学時代は山岳部に所属していた森田生次さん(62歳)。3年生のときには、ヒマラヤへの遠征も行ったというから筋金入りだ。そんな森田さんはいま、フィールドを海へと移し、休日はヨットを楽しんでいる。

「横須賀で育ったこともあり、もともと海に対して親近感はありました。ヨットに初めて乗ったのは、いまから8年ほど前のことです」

自身が営む飲食店でアルバイトをしていた人が、たまたまヨットのインストラクターもやっていた。それが縁となり、江の島でデインギーに乗る機会に恵まれたのだ。以前ボートに乗ったことはあったんですが、音もなく走るヨットの世界に感動しました。仕事の休みは平日なので、ヨットなんて全然いません。海を独り占めできるかのようで、本当に気持ちよかったです」

こうして足繁く海に出るようになった森田さん。それから1年と経たないうちに転機が訪れる。

「中古クルーザーの出物があるという話を聞いたんです。クルーザーなんて未知の世界でしたが、実物を見て舞い上がってしまった」

どうやって動かしたらいいのかも分からなかったが、とにかく惚れ込んでしまった。結局、なんとかなるだろうと手に入れたのが、現在も乗っている〈ナインウェルツ〉(P32)だ。

最初の数回は販売業者が乗ってくれたというが、その後は自己流でどんどん海に出た。外洋にも出られるクルーザーで、デインギーとはまったく異なる楽しさを感じた。しかし、熱心に乗ったのは最初の1年だけ。その後はせいぜい1回乗ったかどうかということだが、一体何があったのだろうか。

「海には出ていたものの、セールを揚げること自体も怖かった。少し風が上がっ



たら、出入港だってストレスになります。そうやって、だんだん足が遠のくようになっていきました」

体力ではなく頭を使うから 中高年にはぴったり

結局、森田さんは愛艇を売りに出す。1年ほど中古艇広告にも載っていたが、幸いにも、買い手は見つからなかった。「あるとき、どうしてか分からなんですが、またヨットに乗りたくなった。どうせ乗るなら、今度はしっかりやろうと思ったんです」

それまでは本を読むなど自己流で乗っていたが、大阪府の青木ヨットスクールで、2日間の基本的なコースを受講することにした。

「この年齢になると勉強する習慣がありませんから、勉強せざるを得ない環境に入ったのはよかったです。短期間の講習ですから技術的にどうこうとは思いませんが、自信を持ったというか、気持ちの部分で大きな収穫があったように感じます」

最終的には、沖縄で開講された3泊4日の夜間航行コースも受講。修了後ほどなく、お兄さんと二人で初めて伊豆大島に出かけた。

「ホームポートの横浜まで距離があるので、帰りはあえて夜中に出航しました。導標を背に出て行くんですが、不思議と落ち着いていましたね」

基礎をしっかりと学ぶことで自信がつき、ヨットが格段に楽しくなったと森田さ



ヒマラヤへの登山経験もある森田さん。「歩かなくていいぶん、ヨットのほうが楽ですよ。でもヨットって、ちょっと外に出るだけでも大冒険なんです」

んは話す。また、仕事をリタイアしたお兄さんも、いまではすっかりヨットに夢中。森田さんが定休日を避けるたびに、「明日は行かないの?」と連絡があるそうだ。「昨年は、兄と二人で初めてレースにも出ました。こんなネーフだからスピードは遅いし、順位は後ろから数えて2番目。やっぱり、チクショーと思いますよ(笑)」

クルージングにレースにと、ヨットの楽しきをますます知る毎日だ。そんな森田さんに、ヨットの魅力について聞いてみた。「日常生活では経験できないことばかりで、ちょっと港の外に出るだけでも冒険です。そういう意味では、山に似ているのかもしれません。岡 寛平さんが世界一周に挑戦しているのを見て、自分も負けられない刺激を受けました。ヨットを始めようと思っている中高年の方は、

ぜひやってみるべきですよ。若い頃は無鉄砲なものが、年を取れば慎重になるもの。ヨットは体力より頭を使うので、中高年世代にはぴったりだと思います」

先日、船歴20年を超えた愛艇のエンジンも載せ替えた。「将来はパラオまでヨットで行ってみたい」という夢は、一歩ずつ実現に向かっている。



上:載せ替えたばかりのエンジンは絶好調。行動範囲が広がったという。今年はマリーナの仲間と数艇で、三宅島へ遠征する計画もある
下:「ヨットをやっている人って、みんな人がいいですね」と、森田さん。懇親で熱いを取ってもらったことがきっかけで、マリーナ仲間も増え始めた



毎回出航するたびに、航海日誌はしっかりと付けている。前回に失敗したときなど、どうすればよいかを自分なりに検証している



今年初めに温水システムも設置。真冬のセーリングを終えた後でも、手を温めることができるうれしい